

こ た ま 愛知県議会議員 樹神義和



県政レポート
No.36
(発行：2020年4月)

発行元：樹神義和事務所

〒473-0935 豊田市大島町前畑1-1
TEL：0565-52-7876 FAX：0565-52-7928
URL：http://www.kotama.net/

誰もが魅力を実感できる“愛知”を目指して!!

更なる飛躍に向け『愛知新起動』へ 令和2年度当初予算が成立!!

デジタル技術の加速度的な進展などにより、世界はダイナミックに変化しておりますが、本県が今後も我が国の発展をリードし続けるためには、時代の波を乗り越え、新たな付加価値を生み出していかなければなりません。

従って、新型コロナウイルス感染症対策は勿論のこと、令和2年度予算に盛り込まれた各施策を確実に実行するとともに、今後もスタートアップを起爆剤とした産業イノベーションの推進やリニア中央新幹線開業を視野に入れた新たな街づくりなどを通じて、愛知の更なる飛躍に努めてまいりますので、引き続きのご指導・ご支援をお願い申し上げます。



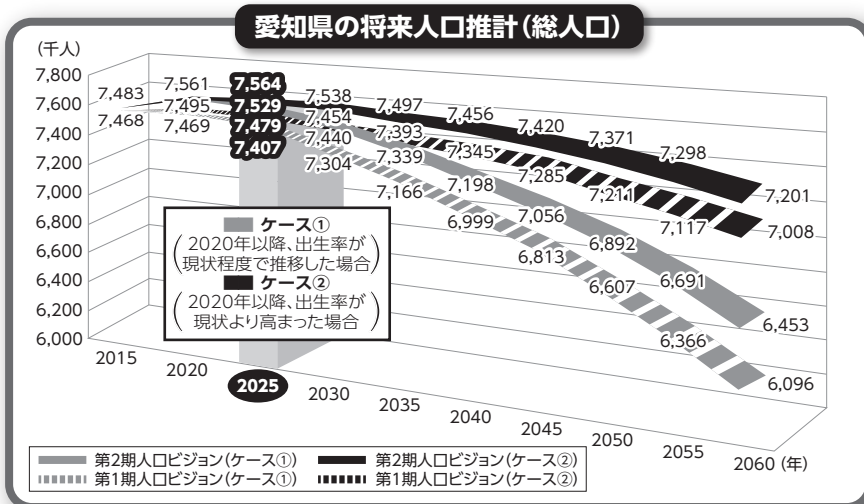
愛知県政トピックス①

第2期『人口ビジョン』&『地方創生総合戦略』が策定される

本県の人口は良好な経済環境に支えられ、毎年2万人程度の人口増加が続いたことから、2015年に策定した第1期『人口ビジョン』の想定を上回るペースで増加したものの、出生数が減少傾向で推移するなどの理由で、日本人のみでは既に人口減少に突入しています。

この様な状況にあって、人口増加をできるだけ維持するためには、産業力の更なる強化とイノベーションを促進し、新たな産業を創出していくことで人を呼び込む力の向上を図るとともに、全ての人々が活躍する社会、生涯にわたって希望や生きがいを持って働き・暮らしていける地域づくりを推進する必要があります。

従って、「日本一元気で、すべての人が輝く、住みやすい愛知」を目指し、東京一極集中にストップをかけ、日本の発展をリードしていけるよう、地方創生に全力を尽くしてまいります。



【総合戦略の基本目標】

仕事づくり

(就業者数:年390万人程度を維持等)

時代の流れを力に産業競争力を高めるとともに、イノベーションによる「しごと」創出、人材育成を進める



魅力づくり

(来県者数:5,000万人等)

「ジブリパーク」をはじめとした新たな魅力の発信などにより、国内外から人を引きつける魅力ある地域をつくる



人の流れづくり

(転出入者数:75,000人/5年の転入超等)

企業誘致や大学の魅力向上、移住希望者と県内企業とのマッチング等により、東京圏等からの人口流入・定着を促す



結婚・出産子育て環境づくり

(女性(25~44歳)の労働力率:76.1%以上等)

若い世代が希望を持って働き、暮らし、安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる



暮らしの安心を支える環境づくり

(健康寿命:全国1位[2022年度]等)

人生100年時代と言われる中、年齢・障害の有無・国籍に関わらず、誰もが生涯にわたって活躍できる社会を実現する



活力ある地域づくり

(観光客数:山間・離島の観光客数維持等)

経済・社会・環境が調和した持続可能な社会をつくるため、SDGsの理念を踏まえた様々な取り組みを進める



令和2年2月定例議会 蓄えてきた力を発揮し、更なる飛躍に向け『愛知新起動』へ

愛知県議会2月定例議会は2月19日から始まり、「日本一元気な愛知」「すべての人が輝く愛知」「日本一住みやすい愛知」の実現に向けた令和2年度一般会計予算案(2兆5,722億円)や、議員提案として上程された「主要農作物の品種の開発並びに種子の生産及び供給に関する条例(種子条例)案」など、64議案を最終日の3月25日に可決し閉会となりました。

また、国の補正予算への対応や国庫補助金等の確定に伴う所要の措置、並びに令和2年度当初予算編成に向けた財源確保のための補正予算案、更には工事請負契約の締結など22議案についても会期中に可決しており、本議会では計86議案を可決しました。

その中でも特に令和2年度予算については、2022年秋のジブリパークのオープン、2026年のアジア競技大会、2027年度のリニア開業と、2020年代には愛知から国内・世界に発信するプロジェクトが続いていくことから、本県にとってこれまで蓄えてきた力を発揮する大きなチャンスであるとともに、こうしたビッグプロジェクトを着実に進め成功させることで、愛知の更なる飛躍につなげていく『愛知新起動』の年としたいとの想いが込められており、ジブリパークの実現・ステーションAiプロジェクトの推進・リニア大交流圏の形成など13の柱立てから編成されています。



提案説明する大村知事

令和2年度予算 13の柱

ジブリパークを2022年に実現

ジブリパーク開業時には愛・地球博記念公園全体で約280万人(うち、ジブリパークは約180万人)の来場を見込んでおり、愛知万博の理念をより良い形で未来に継承できるよう取り組む。



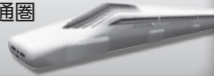
ステーションAiプロジェクトの推進

スタートアップ中核支援拠点「ステーションAi」の整備などを通じて、新たなイノベーションを誘発し、本県産業の成長を拡大させるエコシステムの形成を目指す。



1. 「リニア大交流圏」の形成

リニア大交流圏の玄関口となる名古屋駅のスーパーターミナル化推進や、道路網整備・中部国際空港の2本目滑走路の実現、更には名古屋駅からの40分交通圏拡大検討などを進める。



2. 産業首都あいち

次世代自動車や航空宇宙・ロボット、次世代産業の技術開発支援・立地促進などに取り組むとともに、中小企業支援や商店街振興に取り組む。



3. 農林水産業の振興

食と緑が支える県民の豊かな暮らしづくりに関する施策を総合的かつ計画的に推進する。次期「食と緑の基本計画」の策定などを通じて、農林水産業の振興を図る。



4. 「人が輝くあいち」

教育の充実、女性の活躍促進、子ども・子育て支援、県民の皆様の健康を支える医療・健康長寿、障害者福祉・支援、産業人材・雇用、就職氷河期世代対策といった施策を進める。



5. 観光あいち・魅力発信

「愛知観光プラットフォーム」を構築し、全国に向けたプロモーションなどに連携するとともに、訪日外国人旅行者の本県への取り込みや高級ホテルの立地促進を図る。



6. 文化・スポーツの振興

延期とはなりましたが、引き続き東京オリンピック・パラリンピックを盛り上げるとともに、FIA世界ラリー選手権(WRC)の開催支援や2026年アジア競技大会の開催準備を進める。



7. あいちのグローバル展開

グローバル人材の育成・産業のグローバル化を支援するとともに、外国人県民がスムーズに生活できるよう日本語教育等の支援を行う。



8. 安全・安心なあいち

大規模自然災害への備えの充実に向け後方支援を担う新たな防災拠点整備の検討を進めるとともに、後付け安全運転支援装置の購入設置補助制度を創設するなどして交通事故防止を図る。



9. 環境首都あいちの推進

地球温暖化対策や生物多様性保全に取り組むとともに、食品ロス削減や国際的に関心が高まっている廃プラスチック問題にも取り組む。



10. 東三河の振興

地域連携による地方創生事業の更なる推進をテーマに、主要プロジェクト推進プランに基づく取り組みを地域と一体となって推進。



11. 地方分権・行財政改革の推進

国家戦略特区に提案している規制改革の早期実現を目指すとともに、業務の効率化と行政サービスの向上を目指し、行財政改革の更なる推進を図る。

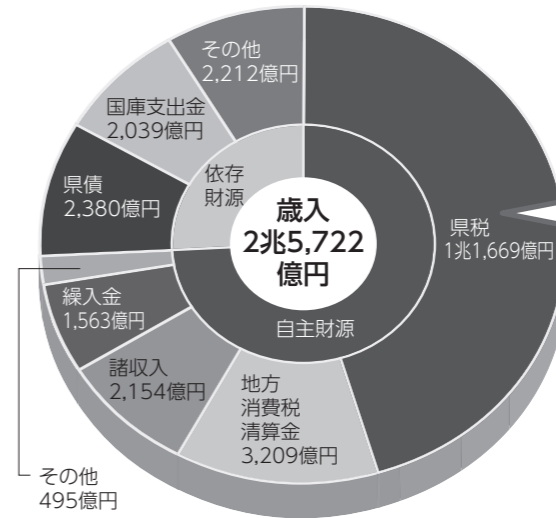


一般会計予算のポイント

歳入 法人二税は企業収益の減速等により1割を超える大幅減収となる

歳入の大宗をなす県税は、企業収益の減速に加え、法人県民税法人税割の税率引下げの影響などにより、法人二税が1割を超える大幅な減収見込みであることから、前年度から148億円減の1兆1,669億円を計上。

一方で、地方消費税は昨年10月からの税率引上げの影響が本格的に現れ増収となるものの、都道府県間の清算金や市町村交付金の支出増があり、これら税関連の歳入歳出を勘案した実質収入ベースの県税収入は464億円もの大幅減となる。



県税の内訳

県民税	
・個人	3,105億円(+45億円)
・法人	340億円(-258億円)
・利子割	16億円(-9億円)
事業税	
・個人	145億円(+5億円)
・法人	2,918億円(-172億円)
その他(自動車税・地方消費税等)	
	5,145億円(+241億円)
合計	1兆1,669億円(-148億円)

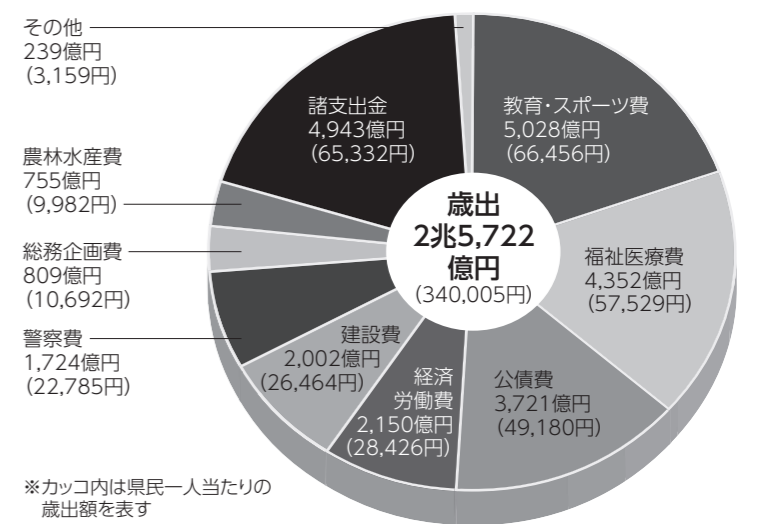
※カッコ内は対前年度の増減を表す

歳出 厳しい財政状況の中、『愛知新起動』に向けて着実な投資へ

福祉関係経費は、幼児教育・保育の無償化の影響が平年度化するほか、高齢化に伴う社会保障費の伸びなどにより一貫して増加傾向にある。特に幼児教育・保育の無償化及び高等教育の無償化の実施に係る所要額は149億円となり前年度から96億円増加。

一方でジブリパークの整備や安心・安全を確保するための投資を着実に推進するとともに、道路・河川等の公共事業は国庫補助金等を活用し、令和元年度の国経済対策補正分と合わせ前年度を大きく上回る額を確保した。

なお、本県はリーマンショック以降、単年度の歳入だけで歳出を賄うことができず、多額の基金取崩しに依存する厳しい財政状況が続いているが、持続可能な財政基盤の確立に向け、今後も行財政改革の推進に着実に取り組んでいく。



新型コロナウイルスの影響を受ける中小企業へ、県独自の支援策も決定!!

新型コロナウイルス感染症の影響により、本県企業においても事業活動に大きな支障が生じており、その影響は長期化・深刻化することも懸念されます。こうした中、本県は2月18日に県融資制度の拡充を実施し、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中小企業への資金繰りを支援してきましたが、一層の資金繰り悪化による緊急的な運転資金のニーズが高まっている状況に対応するため、緊急つなぎ資金の制度を創設(県債務負担行為:88億4百万円)しました。



「あいち行革プラン2020」が策定されました

本県では2014年末に策定した「しなやか県庁創造プラン(愛知県第六次行革大綱)」に基づき、時代の変化に的確に対応する柔軟性と力強さを併せ持つ「しなやか県庁」を創り上げてきました。

しかし、財政状況は依然として厳しく、今後も医療・介護などの扶助費の増加が見込まれることから、**これまで以上に環境変化に迅速・的確に対応し、県民サービスの向上を図るためには、県の持つ限られた経営資源を一層効率的・効果的に活用してまいらなければなりません。**

こうした認識のもと、第七次行革大綱として「あいち行革プラン2020」が策定されましたが、本プランでは「スピーディー」「スマート」「サステナブル」を環境変化に対応する3つの「S」として改革の視点に設定するとともに、**最も重要な経営資源は「人財」と位置づけ、**「人財力」の一層の強化を目指します。

こうした取り組みを通じて、環境変化に伴う政策課題や県民ニーズの変化に対して、**迅速・的確に把握・対応**できる「スピーディーな組織」づくりに取り組むことで、「スピーディーでしなやかな県庁」へと更なる進化を目指してまいります。



主な活動内容 2020.1~3



1月6日 豊田市「新年あいさつ会」に出席



1月12日 上郷・若園地区「新成人を祝う会」に出席



2月9日 松平郷「天下祭」に出席



2月9日 豊田市長選挙結果報告会に出席
(太田稔彦氏 3期目当選)



2月29日 「オイスカ普及拡大の集い」に出席

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月は予定していた多くの催しが中止となりました。

中止となった主な催し

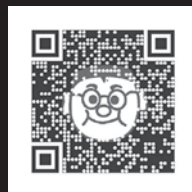
- ★ 中村寿一氏・豊田喜一郎氏 顕彰像献花式
- ★ 市政69周年記念式典
- ★ 豊田市消防団観閲式
- ★ とよたビジネスフェア
- ★ 羽根田卓也選手を励ます会

『こたま 義和』に対するご意見・ご要望をお待ちしております。
また、ホームページにて日頃の活動内容をタイムリーにご紹介させていただきます。是非一度アクセスしてください。

こたま 豊田市

検索

<http://www.kotama.net/>



Facebookでは更に詳細な活動報告をさせていただきますので、是非フォローをお願いします。

